

## 第17回定時株主総会開催



去る6月13日（火）、信金中央金庫北海道支店において、当社の株主である道内全22金庫のご出席（委任状出席2金庫含）をいただき、第17回定時株主総会を開催いたしました。

当日は、第16期（平成28年度）事業報告に引き続いて、第1号議案の第16期（平成28年）貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書承認の件、第2号議案の余剰金の処分の件、第3号議案の取締役・監査役報酬総額決定の件についてご審議いただき、原案通り承認されました。

なお、会議に先立ち、増田社長から次のとおりご挨拶がございました。

### 〈挨拶内容〉

本日は、総代会を控え大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。日頃は当社の業務・運営に特段のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

お蔭様で当社が提供しております各種業務・サービスにつきましては、ご利用金庫様が着実に増加しております。直近の前期の売上高は9億円台を超え、この5年連続で1億円台の台替わりを果たして参りました。

また、全国の情報サービス会社と比べ、かな



り少ない人員で運営していることから、収益も着実に増加して安定基調に入り、財務体質も強化が図られていると感じております。

一方で、将来に向けた人材の育成という課題を抱えておりますが、現在、この課題解決に向けて鋭意検討を進めております。

昨年来、株主金庫様の収益状況は一段と厳しい状況になっておりますので、当社としてもこれまで以上に体制の整備をしながら、より安く使い勝手の良い商品・サービスを皆様に提供するよう努力して参りますので、引き続き特段のご支援ご協力をお願い申し上げましてご挨拶にかえさせていただきます。

### 取締役および監査役

代表取締役社長	増田 正二	(帯広信用金庫会長)
代表取締役副社長	小嶋 俊明	(北門信用金庫理事長)
代表取締役副社長	遠藤 修一	(大地みらい信用金庫理事長)
代表取締役専務	竹谷 信行	
取締役	吉本 淳一	(札幌信用金庫会長)
//	館崎 雄二	(伊達信用金庫理事長)
//	藤谷 直久	(道南うみ街信用金庫理事長)
//	石田 芳人	(苫小牧信用金庫会長)
//	池田 達哉	
//	武田大二郎	
監査役	岡本 守	(北星信用金庫理事長)
//	伊藤 修治	(北海道信用金庫協会専務理事)

## 信用金庫インタビュー

### 第1回：帯広信用金庫

#### 《仮想サーバ移行状況 インタビュー》

弊社仮想サーバにつきましては、現在14金庫にご利用いただき、サーバ数にして30以上ものご利用をいただいております。今回、全てのサーバを弊社仮想基盤へ構築いただくことで移行を進めている帯広信用金庫にインタビューいたしました。



帯広信用金庫 事務部の皆様

#### ☞ 仮想サーバ移行の経緯について

金庫のサーバ管理・運用面の負担軽減とバックアップデータを隔地保管するBCP的観点に効果が期待できることから、当庫では昨年度から自金庫内の各種サーバのHSIS仮想基盤への移行を開始いたしました。



#### ☞ 現在の移行状況について

移行については、第1次ステップ、第2次ステップ、第3次ステップと段階的にサーバを移行し、最終的には全サーバをHSIS様の仮想サーバへ構築する予定です。

平成29年3月に補完情報系のDBサーバをはじめとした9つのサーバを移行する第1次ステップをHSIS様の多大なるご支援・ご協力のもと無事完了し、移行後も安定して稼働しております。今年度は、第2次ステップの12サーバのうち6つのサーバを移行する計画を5月に始動したところです。この第2次ステップ完了に向けて、HSIS様と連携をとりながら進めていきたいと思います。

#### ☞ 今後の計画について

現在第2次ステップに取り掛かっているところですが、これを次年度内に完了する予定です。第3次ステップについては各サーバの更改時期と利用状況等も踏まえ、更なる検討を重ねたうえで進める必要があります。

この移行計画の展望としては、現在進めている第2次ステップ、その先の第3次ステップを完了し、自金庫内のサーバを全て移行した後、その効果として運用管理の負担がなくなるというところに当金庫は大きな期待を寄せています。今後も完了に向けて順調に進められるようHSIS様にご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

#### 帯広信金 サーバ移行スケジュール

28.08 開始	29.03 完了	29.05 開始	31.03 完了予定
-------------	-------------	-------------	---------------

##### 第1次ステップ

- ・補完システム  
(DBサーバ、バッチサーバ)
- ・債権書類集中管理サーバ等、計9サーバ

##### 第2次ステップ

- ・信用リスク管理システムDBサーバ
- ・人事システムサーバ
- ・顧客情報保存文書管理サーバ等、計12サーバ

##### 第3次ステップ

その他サーバ（現在検討中）

# 第1回システム検討委員会開催

去る5月19日（金）、稚内信用金庫札幌支店会議室にて第1回システム検討委員会を開催いたしました。

当システム検討委員会は、旧北海道信金共同事務センター時代から長きに亘り活動を続けてきた「企画委員会」と「システム専門委員会」の2委員会を統合し、道内全信用金庫を対象に設置した新委員会となります。当委員会は、従来の会議体と同様、中央に対する「北海道としての意見集約」や「道内金庫同士の意見交換・情報交換」、「有効なシステムの調査・研究」等を主目的として活動いたします。

当日は、共同システム17金庫、自営システム4金庫による合計27名の参加により新委員会のスタートを切りました。

新委員会正副委員長の選出からはじまりましたが、委員長には道南うみ街信金の田原常務、副委員長に帯広信金の今木理事、稚内信金の橋野理事が選出されました。今回の委員会を最後に退任せられました釧路信金の渡邊専務には、これまで旧企画委員長として多大なるご尽力をいただきましたこと、この書面をお借りいたしまして、御礼申し上げます。

正副委員長選出の後、次の議題について議論・検討を行い、自営金庫、共同金庫が共になって意見・情報交換を活発に行っていただきました。

## 〈田原委員長のご挨拶〉

渡邊専務におかれましては長年企画委員長としてご尽力いただき、心より感謝申し上げます。企画委員会の副委員長からの繰り上がりで、この度新しく発足した委員会で委員長という重責を任せさせていただくこととなりました。

今後の姿が想像できないフィンテックの時代へと世界が向かっていく途上で、この委員会が担う役割は重いものがあると感じております。システムでいかに業務をサポートするかということを、これまでとは違う切り口で検討していくことも新しい委員会の担う役割ではないかと考えております。副委員長のお二方と皆様のご協力を仰ぎながら力を合わせて運営して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 〈議題〉

- ・新委員会の設置と正副委員長の選任について
- ・HSISの平成29年度事業計画について
- ・共同利用型情報系システムの更改について
- ・出資配当金支払通知書返戻管理システムのご提案について
- ・電子帳簿保存・検索システムに関する税務署の見解について
- ・金融商品販売推進にかかる各種ご提案について
- ・WEBオンライン(FREESIA)のご提案について
- ・情報交換書による意見交換
- ・CSS・IBヘルプデスクの機能追加について
- ・その他（全銀振込24時間対応について等）



システム検討委員会の様子



# 共同利用型相続業務支援システム取扱い開始

当社提供サービスのひとつとして、「共同利用型相続業務支援システム」の取扱いを今年の2月から開始しております。

このシステムの取扱いに至る経緯につきましては、本誌第2号にも掲載している「相続支援システム検討会（平成29年9月開催）」での意見・アンケートを踏まえた結果、しんきん大阪システムサービス(株)（OSS）と連携し、同社が提供する本システムを北海道地区において提供することいたしました。

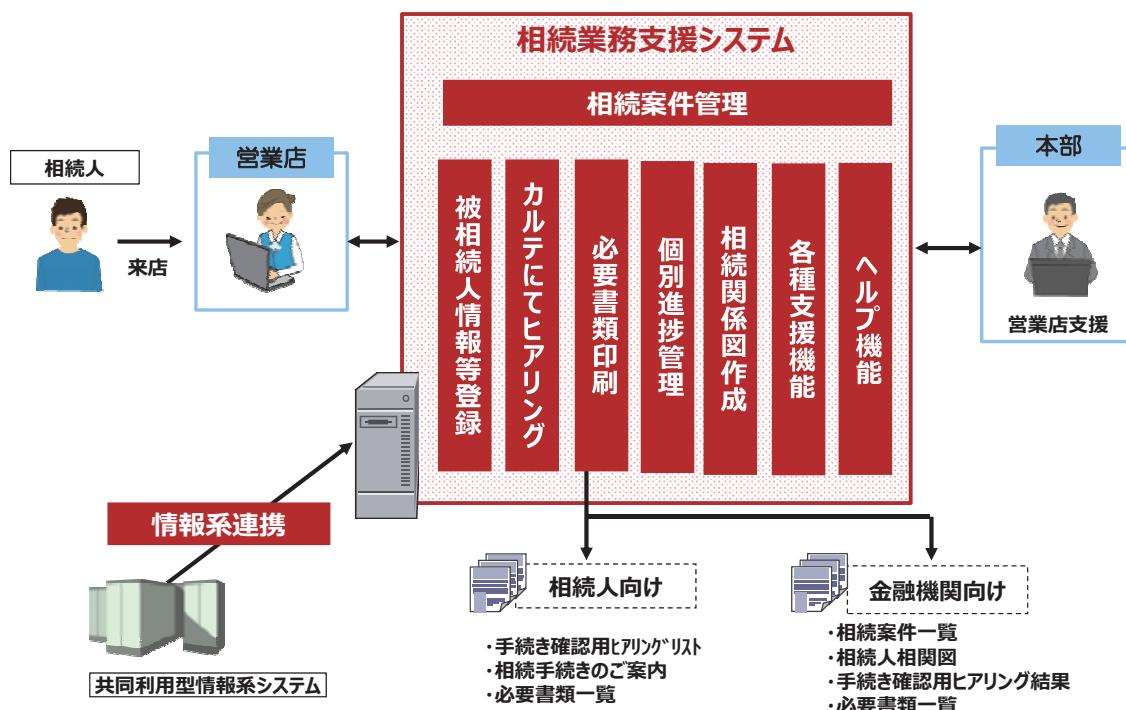
本システムの特徴は、事務処理の流れをガイドする「カルテ（ナビゲーション機能）」の金庫独自作成が可能であるという、非常に高い柔軟性を持つ点にあります。この「カルテ」というナビゲーション機能については、エクセルで簡単に作成できますので、軽微な変更はもちろんのこと、法改正や事務取扱要領の変更があった場合でも、費用をかけることなく金庫でご対応いただくことが可能です。

また、現在 OSS 管内と東海地区内で本システムを利用している18金庫の中でも、カルテを他金庫に公表されている金庫がございます。本システムには、こうした他地区間の横の繋がりという強みがございますので、これを最大限に活かし、他金庫のカルテを参考にしながら自金庫で使い勝手の良いシステムに作り上げることが出来ます。

本システムの現状としては、今年の4月に実際の利用シーンに即したデモンストレーションを導入検討金庫にご覧いただき、早くも2金庫の導入が決定いたしました。また、現在更に4金庫に導入をご検討いただいております。

お蔭様で現在多くのお引き合いをいただいておりますが、北海道地区にて多数の金庫様にご導入いただいた場合はサービス利用料金の更なる値下げも検討いたしますので、是非ともご利用ご検討のほどよろしくお願ひいたします。

【お問合せ先：企画・営業推進部】



## デジタルサイネージのご紹介

デジタルサイネージにつきましては、近年各業界において急速に普及しておりますが、特に金融機関においては、金利・商品概要などの情報を顧客に提供する必要があることから、従来の紙媒体でのポスター・チラシ・お知らせ等の店舗ごとの更新・差し替え作業の効率化に有効であるとして全国的に広まっております。

こういった背景がある一方、導入にあたってはコンテンツの作成、運用・管理など、様々な障壁があることも事実です。そこで、これらの煩雑な部分を共同で取扱い、更に高度なコンテンツ配信を行うことができるよう、当社では共同利用でのデジタルサイネージをご提案しております。

本サービスは、「地域密着」「顧客接点強化」をコンセプトに、コンテンツ、システムの両面の設計から運用までを一括して対応を行っており、コンテンツ配信クラウドシステムにより、金庫側で特別な設備の必要がなくご利用いただけます。また、共同利用することで価格を低廉化し、かつ金庫毎の専用管理画面により独立性を確保しております。多数のコンテンツだけで

はなく、サイネージで伝えたい内容に基づき「外ウィンドウ」から「ATMコーナー」、「ビー」まで、ご要望に応じた最も効率の良いタイプのサイネージをご提案いたします。

金利情報、ニュース、エンタメ情報さらには動画など、お客様に有効なコンテンツと組み合わせることで、視認率の向上による販促効果に留まらず、お客様の体感待ち時間の短縮を実現する等、従来の紙の広告媒体には無い様々な効果が期待できる有効なツールとして、是非ともご利用いただきますようお願ひいたします。

【お問い合わせ先：企画・営業推進部】



## IBヘルプデスク利用金庫拡大中

当社が(株)中国しんきん総合サービス(CSS)と連携して提供しているIBヘルプデスクは、平成28年2月に北見信金様に初のご提供をし、同年、更に3金庫(順に帯広、遠軽、北星信金様)にご利用いただきました。

実際に利用して、「金庫へのお問合せ件数が大幅に減り負担が軽減された」と大変ご好評いただいている当サービスですが、現在更に利用金庫数が増加しており、平成29年3月に釧路信金様、6月に大地みらい信金様、網走信金様が加わり合計7金庫にご利用いただいております。当社の旧企画委員金庫の中で4金庫がご利用されていることから、本年3月には現地CSS・EBサポート課へ業務視察も行いました。

また、本サービスは、電話対応だけでは解決が困難な問合せに対してお客様のパソコン画面をインターネット経由で共有し、遠隔サポートする「リモートサービス」の機能追加など、更なる顧客満足度の向上を図るサービスを今後ご提供させていただく予定です。

現在利用中の7金庫に加えて、更に2金庫に導入をご検討いただいており、今年度中の利用開始に向けて準備を進めております。IB利用契約者数の増加に伴い今後益々ニーズが高まることが予想される本サービスのご利用を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先：企画・営業推進部】